

津山市議会議員

政岡あきひろ

議会報告

津山市の皆様には議会活動などをわかりやすく報告し、市政に関心を持っていただくために発行しています。この報告紙は政務活動費で発行しています。

ごあいさつ

津山市民の皆様、いつもお世話になっております。「政岡あきひろの議会報告」第二十四号ができました。ありがとうございました。ご覧ください。いつも申し上げておりますが、この議会報告は一年に四回開かれる津山市議会の開催ごとに作成しています。実際に、新聞や広報誌、或いはYouTube等による議会中継などでは伝えられない、生の津山市議会の状況やその中で活動する私の様子などについて、できるだけ解りやすくお知らせするために作成し



ています。そのような点について、充分ご理解いただきながらお読みいただければ幸いです。

提言書

さて、今年の三月で未曾有の大災害と呼ぶべき東日本大震災から、十年の節目を迎えました。未だ行方分からない方が二千五百人以上おられ、また一万五千九百人を数える犠牲者の中には身元が判明していない方が五十名以上おられるということです。改めて、犠牲となられた方々に心よりお悔やみを申し上げます。そして、被災地や被災者の皆様方に真の意味での復興の日が一日も早く訪れることを、心よりお祈りしたいと思います。この機を捉え、私達は会派「未来」として「地方自治体における政治の果たすべき使命の第一は、市民の生命及び財産の保全と生活環境の改善である」という理念を掲げ、未だ収束の見えないコロナ

禍への対応を最優先すべきとし、そのうえでコロナ禍収束後を見据え、津山市が県北の拠点都市として輝き続けるために必要な施策実施に関する提言を行いました。

会派代表質問

ほぼ、どの自治体でも同様だと思いますが、津山市議会におきましても三月議会というのは特に重要な議会となります。その理由は、新年度に向けた市長の施政方針が示され、次年度予算（今回は、令和三年度当初予算ということになります）が上程されるからです。これに合わせ、主要な会派から市長が示した施政方針の内容や上程された当初予算の中身について、市長及び執行部の考え方を質す代表質問が行われることとなります。もちろん、私達の会派「未来」でもこの代表質問に臨むわけですが、今回は先ほど述べた提言書の内容を踏まえたうえで、会派の各議員が意見を申し合ひながら議論を深め、質問内容を集約していきましました。ところで、現在私達の会派「未来」は津山市議会の中では最大会派となっていますので、質問順序も一番目ということになります。したがって、それにふさわしい内容の質疑ができるように、入念に準備することを心掛けました。その原稿を基に、今回は勝浦正樹議員が登壇し代表質問を行いました。以下、その内容をお知らせいたします。

定数削減議案の提出

質問内容の報告の前に、極めて重要なお知らせをします。私は、これまで津山市議会において、議員定数の削減の重要性を説き続けてきました。このことは私の公約ですし、多くの市民の皆様からお聞きする要望でもあります。

また、議会においても議会活性化調査特別委員会を中心に、時間をかけて議論されてきたことでもあります。本来、この三月議会では、同委員会から具体的な削減人数が示されるはずでしたが、定数削減に反対する議員や様々な思惑が絡み、委員長報告から議員定数の削減に関する事項が削除されてしまいました。

これを受け、我々は会派未来の仲間や考えを同じくする人達と、現行の定数二十八名から二十四名にする四名削減案を提出



▲裏面に続く

会派未来

発行 政岡あきひろ事務所
活気ある津山へ 未来志向改革!!

〒708-0014 津山市院庄 621-2
Tel. 0868-28-0501 Fax. 0868-28-4437
E-mail masaokape@ebony.plala.or.jp

市議会の内容は津山市役所ホームページから配信しております。
URL <https://www.city.tsuyama.lg.jp/city/index2.php?id=392>

しました。これには、各議員が本会議場で自らの考え方を示すべきであるという意味もありました。残念ながら、十三対十四の僅差で否決されましたが、定数削減にはこれからもしっかりと取り組んでいきます。

質問内容

まず、現在のコロナ禍に対する認識と将来展望について、市長の考えを質しました。さらに、期待されるワクチン接種の早期実施を踏まえ、二月一日に設置されたワクチン接種室に言及し、全庁を挙げた手厚い支援体制の構築を含めたワクチン供給体制に関する質問をしました。

この際、会派からの提言にも盛り込んでいますが、社会・経済活動に関して、しっかりとした感染防止対策を図ることで、経済活動などに関してできることがあるのではないかと、このことを訴えました。例えば「津山モデル」といえるような取り組みを発信していく必要があることを提案しました。

一方で、本議会に上程された津山市事業支援事業（二億四百万円）の詳細を質問するなど、現在の厳しい経済状況に苦しんでおられる市民や事業者に対する支援策の必要性を訴えました。また、従来からの人口減少に加え、コロナ禍による税収不足が想定される状況をにらみ、行政コストのさらなる縮減をはじめ



とする、構造改革への取り組みにも言及しました。

さらに、そのうえでコロナ禍収束後を見据えた積極的な施策実施の必要性を指摘し、メリハリをつけた財政執行を求めました。例えば、第二期総合戦略見直しの「ひと・しごと」の流れ創出に関する事項や、新たな生活様式に対応するDX社会実現のための積極的な施策実施です。また、そのための基盤整備の重要性と、空港津山道路の早期整備やJR津山線の時間短縮などについても質しました。

この他、歴史と文化に根差したまちづくりという視点から「洋学のまち津山」、これに取り組みDMO施策を踏まえた観光協会との連携、法人化をにらんだ産業支援センターの活用策、地域住民自治活動の支援と人材育成に関する事項、新たな教育大綱の意義とICT活用など教育環境支援に関する事項、作陽高校との絆を

市長及び執行部の 答弁内容

継続する取り組み、豪雨災害への備えなどの防災対策、地域商社に関すること、持続可能な（SDGsを念頭に）まちづくりに関する事項などについても、踏み込んだ質疑を行いました。

市長からは、時機を逸することなく「新たな日常」に対応し、「活性型の行財政改革日本一」を目指す意気込みが示されました。さらに、ひと・しごと・ものが集まる施策について、メリハリをつけて実施していきたいという答弁も得ました。

この他、個別の答弁内容について詳細な説明は省きます（A4用紙で五十枚弱の答弁書になります）が、今後においても津山市が県北の拠点都市として輝き続けるために必要な施策実施に対する、決意を随所に示す答弁内容であったと思います。

終わりに

ところで、この三月議会から津山市議会でもタブレット端末が導入されました（議員の政務活動費の一部を返上して、その費用に充てました）。このことは、議員として一期目であった前期から、私達が会派未来として取り組んで来たことです。

導入までには抵抗もありましたが、結果的に資料や情報収集

が飛躍的にはやくなり、多様な角度から判断材料を得られるようになりました。これにより、これまで以上に質の高い議論が行える手応えを感じています。

一方で、議会と対峙する執行部には未だ導入されていません。今後、必須となるDX社会・DX自治体の構築の為に早期導入が求められます。今議会の代表質問でも、早期導入を促す提言を行っていきます。今後の取り組みが期待されることです。

このように、限られた誌面ではお伝えすべきことの一部しか述べられませんが、今後も津山市議会の生の様子や私の活動内容について、解りやすくお知らせしていきたいと考えています。また、市民の皆様方からのご意見やご要望に関しても、しっかりと耳を傾けていくつもりです。今後ともよろしくお願いたします。

